

継続研究課題（平成 26 年度～）

2. 静止衛星海色センサーを利用した沿岸域の流動・生物生産・物質循環に関する研究

対応教員：石坂丞二・三野義尚

韓国は静止衛星を利用した世界初の海色センサーである GOCI（静止海色イメージャー）を 2011 年に打ち上げました。このセンサーによって、韓国を中心として、日本のほぼ全域、中国北東部、ロシアの南東部を含む沿岸海域を対象に、500 m 解像度で、9 時から 16 時まで 1 時間間隔のデータが取得できます。これまでにない、日周期や潮汐周期などを含んだ面的な海色の観測データによって、生物生産のみならず、流動や物質循環など様々な研究の発展が期待されます。しかし現状では、日本国内での利用はまだ限られており、その一因として、そのデータ精度や利用方法に関する情報が日本の研究者に十分に伝わっていないことがあげられます。地球水循環研究センターではこれまで毎年、韓国国立海洋科学技術院の韓国海洋リモートセンシングセンターと海色ワークショップを行っており、GOCI の高時間・空間解像度データを利用した、沿岸の流動、生物生産、物質循環の研究を牽引していくことが期待されています。

そこで、平成 27 年度の公募では、以下のような具体的な課題例を示します。

- ・ GOCI などの高時間・空間解像度の海色データに関して、日本やアジアの沿岸域を中心に行なうアルゴリズムの開発および検証作業
- ・ GOCI などの高時間・空間解像度データによる、あるいはそれらのデータを他のデータやモデルと組み合わせて用いて行なう沿岸域の流動、生物生産、物質循環に関する応用研究
- ・ 関連分野における、アジア域、特に韓国など東アジアの研究者との国際的な協力関係の構築